

院内で活動している専門・認定看護師です♪

福岡大学病院には、現在16領域、31名の専門・認定看護師が組織横断的に活動をしています
R4年4月現在

【救急看護】



中村悦子
(看護部)



安武麻衣
(救命センター)

生命の危機状態に陥った患者さんに対する急変対応を中心に看護実践しています。そして、急変対応をスタッフとともに振り返り、現場の状況に合わせた解決策を一緒に見出せるような教育支援を行っています。また、DMAT隊員として、災害に対応できる病院を目指し、防災対策に取り組んでいます。



山浦章平
(救命センター)



黒木志帆里
(消化器外科)

突然、健康を保つことができなくなった人やその周囲の人々に、適切なケアをタイミングを逃さず丁寧に提供できるよう努めています。病の体験に抱く苦悩や苦痛が軽減できるよう寄り添い、看護師間はもとより職種間協働や調整を行っています。また、急変をおこさないような組織づくりにも取り組んでいます。

【重症・急性看護専門看護師】



平良沙紀
(手術部・SICU)



久間朝子
(消化器内科)

【集中ケア】



押川麻美
(医療安全管理部)



安倍朋子
(ハートセンター)

重症患者さんの病態についてアセスメントを行い、急変や重篤化を回避するための看護ケアを実践しています。また、人工呼吸管理患者さんの体位管理や気道ケア、早期リハビリテーションを行い、廃用性障害の予防、早期回復に向けた看護援助を実践しています。私たちは、集中治療領域だけでなく、あらゆる病棟の重症患者さんの看護実践に携わっています。

【がん放射線療法看護】



小長のり子
(がんセンター)



甲斐顕子
(看護部)

患者さんが病状や放射線治療を理解し治療に取り組むことができるよう「患者さんのもてる力」を大切にしながら、医師・放射線技師とチーム医療を展開し、治療に伴う心身の苦痛を予測した看護をスタッフと共に実践しています。

【がん化学療法看護】



小田真由美
(消化器外科)



福田まひる
(腫瘍血液内科)



川上富美
(がんセンター)

多様化するがん薬物療法を安全・安楽に提供できるよう医師・薬剤師とともにチーム医療に取り組んでいます。また、がん化学療法看護の質向上を図るため、スタッフ教育や、組織横断的に活動し実践場面を支援しています。

【緩和ケア】



【心不全看護】



合谷裕子
(ハートセンター)

がんと診断された時から、病期や時期を問わず、患者さんご家族の身体的、精神的、心理社会的な『つらさ』に対し、多職種と協働しながら対応しています。

心不全を抱えながらも、住み慣れた場所で患者さんらしい生活が送れるように多職種で協働し、再入院・重篤化回避のための療養支援、生活史や価値観を尊重した意思決定支援を行っています。



堀田綾美
(がんセンター)



東万里子
(腫瘍血液内科)

【皮膚・排泄ケア】



直海倫子
(消化器外科)



富田美和子
(褥瘡対策室)



西田 薫
(褥瘡対策室)

新生児から高齢者まで、さまざまな患者さんの皮膚状態から、起こりうる皮膚障害のリスクをアセスメントし、予防的スキンケアを大切にしています。退院後も患者さんやご家族が継続できるよう、ケア用品の選択やケア方法を提案しています。

【感染管理】



橋本文代
(感染制御部)



宮崎里紗
(感染制御部)

新型コロナウイルス感染症対策では、一般の方にも広く感染対策の重要性が認知されるようになりました。患者さんと医療従事者を感染から守るために「かからない、うつさない、ひろげない」をモットーに基本的感染対策である手指衛生や感染経路別予防策を軸に教育、実地指導、相談対応を行っています。地域の医療機関とネットワークを構築し、地域全体の感染対策相談等にも対応しています。

【小児救急看護】



藤田 めぐみ
(外来)

外来や病棟の診察・処置・ケアなどの場面で出会う子どもたちやそのご家族のもてる力を引き出せるよう、スタッフと共に学び、考え、より良い看護ができるよう取り組んでいます。

【糖尿病看護】



手島佳代子
(ハートセンター)



坂本倫基

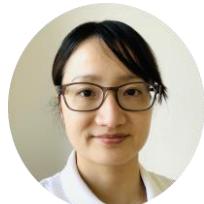
(内分泌・糖尿病科)

患者さんが糖尿病を持ちながらも、これからの生活がより良いものにできることが治療の目標です。患者さんひとりひとりの生活を大切にしたい、生活調整やサポートを糖尿病チームで行っています。

【脳卒中リハビリテーション看護】



竹下恵美
(看護部)



山田由李子
(脳神経センター)

約7割に後遺症が残り、約1割が命を落とす脳卒中。幸い後遺症を生じなかった残りの2割も常に再発の危険性をはらんでいます。そのため、脳卒中にならない・悪くしない・残された機能を活かす支援を行っています。

【慢性疾患看護専門看護師】

嚥下障害のある患者さんの「食べる」ことを支援するために誤嚥・窒息を予防するための安全な食べ方をはじめ、食事形態の調整、口腔ケア方法の提案などを多職種と協働して取り組んでいます。

【摂食・嚥下障害看護】



浦上 聡子
(脳神経センター)



四井 泰大
(救命センター)

【認知症看護】



陣内由香利
(眼科・総合診療部)

65歳以上の4人に1人が発症する認知症。入院という環境の変化は、認知症の悪化やせん妄を発症する大きな誘因といえます。認知症を悪化させない、安心して入院生活を送れるように多職種と協働しながら身体や環境を整える支援をおこなっています。

【精神科看護】



河野さつき
(精神科病棟)

精神疾患を抱える患者さん、身体疾患に加えてせん妄や抑うつや不眠を有した患者さんに対して、症状・セルフケア・生活歴からアセスメントを行い、その人らしい生活がおくれるように関わり方やケアを多職種チームで支援します。